

地域福祉活動 事例集Ⅱ



この事例集は、富山市内の地区社会福祉協議会で行われている活動を紹介したものです。

富山市内には80の地区社会福祉協議会が組織され、今回紹介した以外にもさまざまな活動が行われており、今後も数多くの活動を紹介していきたいと考えています。

市社会福祉協議会では、職員の地区担当制や活動助成金の交付など地区社会福祉協議会活動の支援を行っています。

この事例集が、地域福祉活動を進める手がかりとなることを願っています。

も く じ

1 地区社会福祉協議会の基盤整備事例

- (1) 福祉推進員連絡協議会の設置 1
 <奥田校下社会福祉協議会>
- (2) 家庭で出来る介護予防教室の開催 3
 <藤ノ木校下社会福祉協議会>
- (3) 地域ボランティアグループ『はまゆう』の活動 5
 <浜黒崎校下社会福祉協議会>
- (4) 子育て講座『覚えよう小児応急手当』の開催 7
 <山田地域社会福祉協議会>

2 地域での要援護者支援やふれあい活動事例

- (1) 三世代交流「長岡住民ふれあいフェスティバル」 9
 <長岡地区社会福祉協議会>
- (2) 『愛の手募金』活動 11
 <星井町地区社会福祉協議会>
- (3) サロン『よってかれ』の開催 13
 <大沢野北部地区社会福祉協議会>
- (4) 健康ウォーキングの開催 15
 <保内地区社会福祉協議会>
- (5) ネットワークの強化 17
 <神保地区社会福祉協議会>

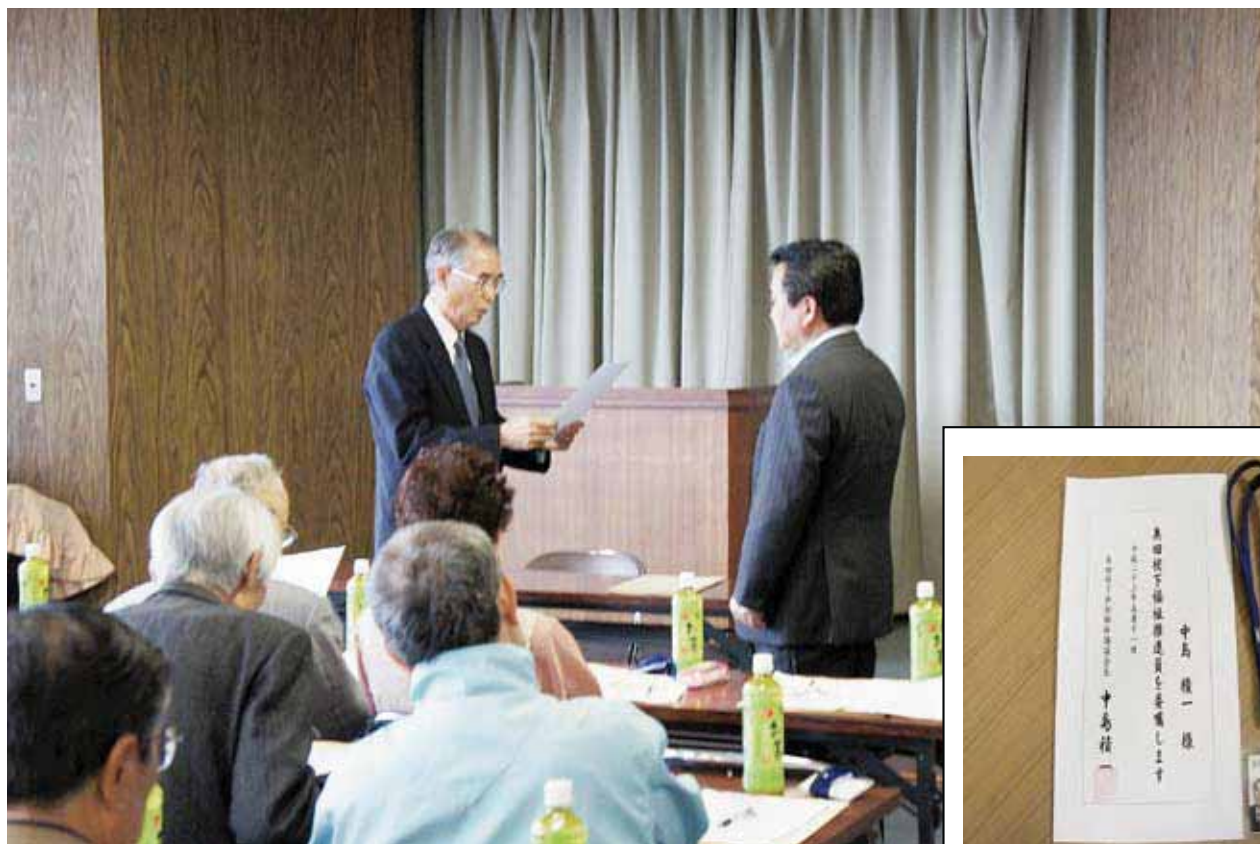
3 地域での福祉情報の収集と提供事例

- (1) 『堀南あいねっと』の発行 19
 <堀川南社会福祉協議会>

1 地区社会福祉協議会の 基盤整備事例

(1) 福祉推進員連絡協議会の設置

奥田校下社会福祉協議会 会長 中島積一



<委嘱状交付>

<委嘱状と名札>

◇活動の概要

奥田校下社会福祉推進員連絡協議会は、奥田校下社会福祉協議会を構成する1団体として、設立総会にて規約や行事計画、予算等の承認を得て発足しました。

社会福祉協議会の活動の一環として、人づくり、組織づくりが重要目標であり、人と人とのふれ合い、要援護者の孤独感の解消、安否確認のため、福祉推進員を各町内より1名以上（制限しない）を推薦して頂き、安心して生活出来る住みよい支え合う環境づくりを進めています。

◇活動の開始にあたって苦労したこと

◎事業の取り組みへの理解

福祉推進員の推薦（選出）のために、校下自治振興会に協力をいただき、また、各町内会長をはじめ、社協の各種団体の参加による研修会について、2年前より年2～3回実施（講師には、市社会福祉課（行政）、市社会福祉協議会、地域包括支援センター）し、福祉推進員について理解を深めました。

◎福祉推進員の推薦方法

福祉推進員の推薦方法について、校下自治振興会の全体会議において、段階的に事業内容の説明や名簿提出のお願いをしました。

◇活動の進め方（協力者の確保、PRの方法など）

- ◎見守り、声かけなどによる福祉問題の発見
- ◎福祉問題について民生委員児童委員、専門機関との連絡
- ◎高齢者、障害者、子育て中の親子などの社会参加と支援
- ◎校下社協の行う地域福祉活動の参加協力



<研修会の様子>



<民生委員児童委員との意見交換>

◇活動上の課題・対応策

- ◎奥田校下全町内会より専任者が選出されるまで応募（毎年）
- ◎福祉推進員の任期は2年とし、年3～4回の推進員研修会を行い、現状の活動報告、意見交換と推進員の交流を大切にします。
- ◎福祉推進員からの活動上の要望について改善していきます。
- ◎福祉施設の見学や他校下との交流・研修を計画していきます。

<奥田地区のデータ>（平成23年9月末住民基本台帳）

人 口：10,694人 世 帯 数：4,817世帯
65歳以上人口：2,728人 高 齢 化 率：25.51%
14歳以下人口：1,394人
事 務 局：奥田地区センター内 TEL 432-3312

(2) 家庭で出来る介護予防教室の開催

藤ノ木校下社会福祉協議会 会長 藤田 弘



<家庭でできる介護予防教室の様子>

◇活動の概要

- ◎校下20町内中、10町内の公民館で介護予防運動の用具を使って、『誰でも、どこでも出来る、ふれあいと用具による介護予防』を重点に実施しました。
- ◎楽しく毎日を暮せる仲間づくりを行ないます。
- ◎市社会福祉協議会の助成金を活用し、家庭でも継続して取り組んでもらえるよう、トレーニング用具を参加者に配布しました。

◇活動の開始にあたって苦労したこと

活動日の設定を土曜日、日曜日に組んだことで、事前に保健所の保健師や地域包括支援センターの職員、機能運動指導員などと十分な打合せをし、協力して頂いたこと

◇活動の進め方（協力者の確保、PRの方法など）

- ◎家庭で出来る介護予防ということで町内会役員、社会福祉協議会役員、藤ノ木地域包括支援センター、南保健福祉センター保健師の協力
- ◎各町内会回覧板や福祉だより等の呼びかけ



<オリエンテーション>



<腕をピッと上げて背筋を伸ばそう>

◇活動上の課題・対応策

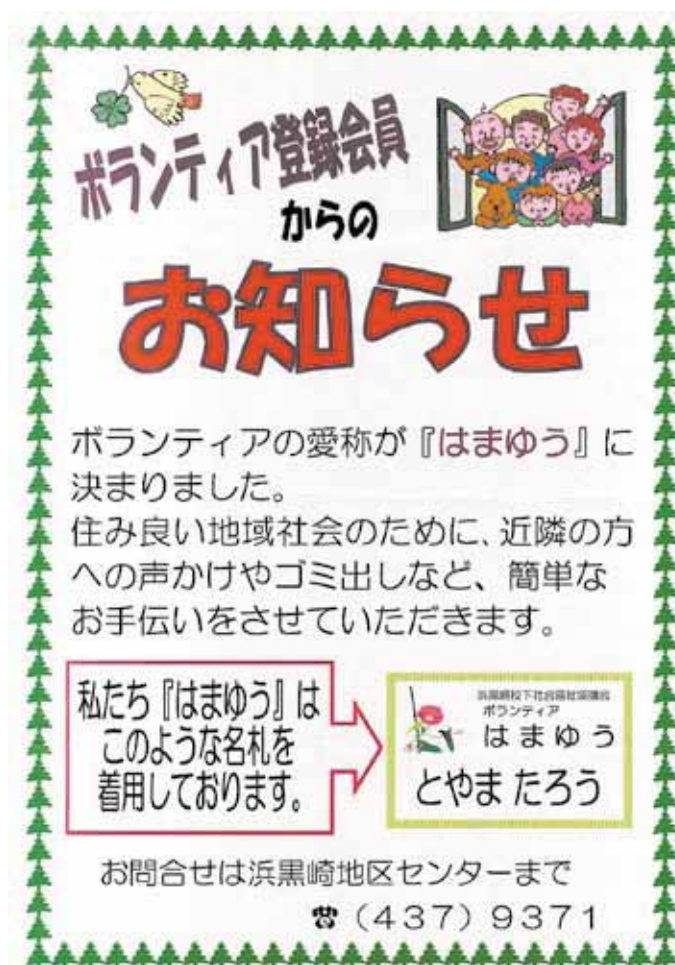
- ◎介護用品(トレーニング用具)の安全性、費用、数量などを決めました。
- ◎各家庭で使用するため、参加者1名に1個として数量を決めました。
- ◎児童の参加もあり、児童にも配布しました。

<藤ノ木地区のデータ> (平成23年9月末住民基本台帳)

人 口：14,419人 世 帯 数：5,577世帯
65歳以上人口：3,000人 高 齢 化 率：20.81%
14歳以下人口：2,204人
事 務 局：藤ノ木地区センター内 TEL 421-2444

(3) 地域ボランティアグループ『はまゆう』の活動

浜黒崎校下社会福祉協議会 会長 吉田久嗣



<自治公民館、ごみ集積場などへポスター掲示>

◇活動の概要

平成18年度に行われた「地域福祉ニーズ調査」の結果に基づいて私達が『出来ること』『もっと気軽にボランティアを』という思いで2年前に、ボランティア“はまゆう”を立ち上げました。

活動内容としては、近隣の高齢者の方への声かけや、安否確認、ゴミ出し、普段の生活で困っていることの手助けなどです。また、年2回75歳以上のひとり暮らしの方を対象に、季節のお弁当の配食を家庭訪問を兼ねて実施しています。

◇活動の開始にあたって苦労したこと

- ◎ボランティア登録者を広報誌で募集したところ、11名の方の登録がありました。町内別で見ると偏りがあり、校下全体においても活動に偏りがあります。
- ◎校下住民の方々に、ボランティア“はまゆう”の登録者（活動をする人）や活動内容を周知してもらうにはどうすれば良いか。

◇活動の進め方（協力者の確保、PRの方法など）

- ◎広報誌で協力者を募り、登録いただいた方々の町内名や氏名を地区社協だよりで公表しました。
- ◎ボランティア登録グループの愛称を校下住民より募集し、“はまゆう”に決定し、“はまゆう”を多くの方々に知ってもらうため、各町内にポスターを掲示し、“はまゆう”登録者には、名札を着用して活動するようにしました。

| 年齢階級 | 性別 | 申し込み数 | 申し込み数 | 申し込み数 | 申し込み数 |
|-------|----|-------|-------|-------|-------|
| 10歳以上 | 男 | 24 | 24 | 24 | 24 |
| 10歳以上 | 女 | 23 | 23 | 23 | 23 |
| 50歳以上 | 男 | 24 | 24 | 24 | 24 |
| 50歳以上 | 女 | 21 | 21 | 21 | 21 |
| 50歳以下 | 男 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 50歳以下 | 女 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 合 計 | | 96 | 96 | 96 | 96 |



＜広報誌でボランティア登録呼びかけ＞

＜地域包括支援センター職員を招き
ボランティア研修を開催＞

◇活動上の課題・対応策

- ◎“はまゆう”についてまだ知らない人が多く、声かけや安否確認をしたくても警戒されることがあります。改めて、校下住民や町内会長、民生委員に、“はまゆう”登録者の周知を図ることが必要です。
- ◎『誰に、いつ、どのような活動を行っているのか』という報告体制をとっていないため、ボランティア活動が活発に行われているか、受ける側の意見や要望等が明確でないのが現状です。
- ◎“はまゆう”登録者同士の情報交換等の場を設けることも考えているところです。

＜浜黒崎地区のデータ＞（平成23年9月末住民基本台帳）

人 口：2,872人 世 帯 数：1,059世帯
 65歳以上人口： 890人 高 齢 化 率：30.99%
 14歳以下人口： 321人
 事 務 局：浜黒崎地区センター内 TEL 437-9371

(4) 子育て講座『覚えよう小児応急手当』の開催

山田地域社会福祉協議会 会長 坂口清志



< A E Dによる応急手当 >

◇活動の概要

子育てサロン「ぷーさんくらぶ」は、妊婦さんや子育て中の親子が気軽に参加して情報交換などを通じ、仲間づくりを図る集いの場です。山田児童館の一室で、毎週火曜日に開催しています。

生後4ヶ月～未就園児の親子や家族が欠かさず集い、他のお母さんになつくほど和気あいあいと打ち解けた雰囲気での交流が行われています。

学校の夏休みや冬休み時期には、児童館を利用する小学生とも触れ合いながら楽しく遊んでいます。

◇活動の開始にあたって苦労したこと

合併前からあった子育てサークルを支援するために始まった子育てサロンです。

開始当初は、何か事業をしなければと思い、月1回以上はボランティアの読み聞かせや季節行事の開催を計画しましたが、地域社協だけの企画・開催には、ボランティアの確保や運営に負担がかかり、計画倒れになってしまうこともありました。

そこで、開催場所を公民館から児童館へと変更し、月2回は手遊び・手作りおもちゃ作りを児童館事業で、月1回は保健センター事業の乳幼児相談会をサロンの中で開催していただいています。

その結果、地域ボランティアの他に見守るスタッフが増え、協力し合うことでお互いの負担が減ってきました。対象者が少なく、小さな地域だからできることだと思います。

◇活動の進め方（協力者の確保、PRの方法など）

対象者の特定ができず、参加を募るには参加者の口コミや保健推進員に声かけをお願いして参加の呼びかけをしています。また、保育所や児童館、市社協の窓口にチラシを置き、事業開催を周知しています。

母親の仕事復帰後は、おばあちゃんと乳幼児の参加を呼びかけ、現在も数組の参加があります。

サロンは親子がくつろいで自由に遊び、仲間づくりを行う場であるので、事業内容については「サロンで何がしたいか」を参加者から意見を出してもらい、意向に沿った季節行事や講座を開催しています。参加者には運営にも積極的に関わってもらい、みんなで事業を進めています。

事業開催に多数のボランティアが必要な時は、地域社協の各種団体に依頼し、協力いただいています。



<おやつ作り>



<ベビーマッサージ>

◇活動上の課題・対応策

参加者・サークルの代表も産休・育児休暇が終わると仕事復帰される方が多く、1年未満で参加者が入れ替るのが現状です。そんな中でのサークルの代表、サロン運営の担い手の確保には苦勞しています。

「こうしなければならない」という決まりに縛られず、その時々状況に応じ話し合いながら活動しています。

年度末には、参加した母親にサロンの感想・要望などのアンケートに協力いただき、今後の運営について代表のお母さん、地域社協、保健師、児童館担当者で話し合っています。

<山田地域のデータ> (平成23年9月末住民基本台帳)

| | | | |
|---------|-------------------------------|------|---------|
| 人 | 口：1,696人 | 世帯数 | ：541世帯 |
| 65歳以上人口 | ：478人 | 高齢化率 | ：28.18% |
| 14歳以下人口 | ：186人 | | |
| 事務局 | ：富山市社会福祉協議会山田支所内 Tel 457-2113 | | |

2 地域での要援護者支援や ふれあい活動事例

(1) 三世代交流「長岡住民ふれあいフェスティバル」

長岡地区社会福祉協議会 会長 中林伸男



＜富山市消防音楽隊によるマーチング演奏＞

◇活動の概要

近年、長岡地区においても少子・高齢化、核家族化が進み、行事やボランティアなどに携わる年齢層もかなり高齢化していることから、世代間交流や地域の絆の強化を図ることを目的に、小さな子供からお年寄りまでたくさんの方が参加できる「長岡住民ふれあいフェスティバル」を平成19年から毎年、7月の第4日曜日に北代緑地公園で実施しており、本年も7月24日に開催しました。

当日は早朝から自治会、長寿会、PTA、児童クラブ、体協、社協など大勢の皆さんでラジオ体操をし、会場の除草をすることから始まり、正午からは会場の設営や模擬店設置、4時からのフェスティバル、7時からの抽選会、そして終了時には皆さんで会場清掃するなど終日賑やかに行われました。

特にフェスティバルでは保育所、幼稚園、小学校をはじめ、サークル活動・愛好会など日頃の活動成果の発表の場として活用していただくとともに、子供たちの宝探し、パークゴルフ、ミニ動物園、人力車、消防車体験、おたのしみ抽選会などの他、地元産野菜などの直売や模擬店での物販などたくさんのメニューのもと、総勢700人を超える地区内外の方々が夜まで親睦交流を深めることができました。

なお、今回は東日本大震災の義援金募金や空き缶・ペットボトルの回収を通じて、エコ対策の徹底もあわせて行いました。

◇活動の開始にあたって苦労したこと

- ◎地区住民への周知案内、広報車の巡回
- ◎地元及び近隣の企業、店舗などへの周知と協力要請
- ◎運営資金の調達、確保

- ◎地区内の各種団体間の繋がりが強くなるような実行委員会の設置（人員、組織）
- ◎参加者が楽しめる内容の企画（アトラクション、出店者の発掘・協力要請・育成など）

◇活動の進め方（協力者の確保、PRの方法など）

- ◎自治振興会の役員会を通じて社協をはじめ、各種団体に依頼するとともに協力者の人選を要請
- ◎参加者へのPRについては、各自治会・町内会の会合で全戸に周知を図るよう要請
- ◎広報については、地区内に50枚のポスター掲示や各町内会を通じて各戸チラシ回覧、さらに各戸配布の「公民館だより」に掲載し周知



<各種団体の協力によりフェスティバルが開会>



<わんこそば大会>

◇活動上の課題・対応策

- ◎毎年参加者が増え規模が拡大してきていることから、限られた資金の中で最大限の効果が得られるようコスト削減など工夫に努めています。
- ◎屋外での開催で準備していることから、天候に左右される部分が多いため、出店者などの協力者には説明し、ご理解をお願いしています。（雨天時は長岡小学校体育館で開催）

<長岡地区のデータ>（平成23年9月末住民基本台帳）

| | | | |
|---------|------------|------|----------|
| 人 | 口：4,290人 | 世帯数 | ：1,586世帯 |
| 65歳以上人口 | ：1,088人 | 高齢化率 | ：25.36% |
| 14歳以下人口 | ：488人 | | |
| 事務局 | ：長岡地区センター内 | TEL | 442-4350 |

(2) 『愛の手募金』活動

星井町地区社会福祉協議会 会長 内山信之



< 『愛のおせち料理』 の配布 >

◇活動の概要

星井町地区では数十年前から、『愛の手募金』を実施しており、地区の住民の皆様から頂いた志を地区の恵まれない方や困っておられる方に、お盆と暮れに年2回お届けしてきました。以前は、生活保護の方や保護児童の方々にも、お届けしてきました。

2年程前に、事業の見直しを行い、広く地区のお年寄りの方々にお届けしようと現在の形になりました。

◇活動の開始にあたって苦労したこと

◎地区で集めた住民の皆様の志をどのような形で、地区の方々にお返ししたら、皆様の同意了解が得られるか協議しました。

◎お渡しする品目の選定や、お届け対象者の枠決め等、住民の皆様の了解が得られるよう協議検討しました。

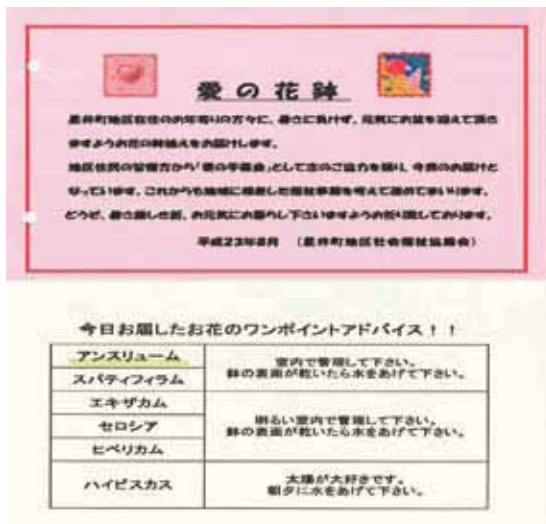
◇活動の進め方（協力者の確保、PRの方法など）

◎どういう形で何をお届けしたら、お年寄りに喜んでもらえるか。

◎対象者の選出調査方法はどうか検討します。

（社協から町内会長に依頼し、各班長の協力を得て調査）

◎満85才以上のお年寄の方々に、お盆は『愛の花鉢』、暮れは『愛のおせち料理』と名付け、品物と共にメッセージカードを添えることにし、お届けの時に一声掛けや安否確認をします。



<愛の花鉢>



<愛のおせち料理>

◇活動上の課題・対応策

◎各町内会から提出された名簿に基づいてお届けしましたが、例えば施設に入所中とか入院中とか町内会長の判断に少し理解の食い違いがあり、どのように統一性を持たせるか協議検討します。

◎暮れの『愛のおせち料理』に関しては生ものなので、配付時在宅して頂くよう、又、その日のうちに召し上って頂くよう声掛けをします。

<星井町地区のデータ>（平成23年9月末住民基本台帳）

人 口：2,600人 世帯数：1,203世帯
 65歳以上人口：892人 高齢化率：34.31%
 14歳以下人口：209人
 事務局：星井町地区センター内 TEL 492-2260

(3) サロン『よってかれ』の開催

大沢野北部地区社会福祉協議会 会長 塩田貞子



<サロン『よってかれ』の様子>

◇活動の概要

平成17年に、活動拠点である大沢野北部地区福祉センターが開設し、町内会単位の支部制（5支部）で事業企画し、地域福祉を推進しています。

サロン運営は、地区役員と活動委員で自主活動を主体として、楽しい集いの場所であることを目的としています。広報誌を全戸配布し、事業への参加を通じてボランティアを増やし、「声かけ」の大切さを呼びかけています。

◇活動の開始にあたって苦労したこと

- ◎どのような企画内容で運営すれば良いか悩みました。
- ◎日中1人ぼっちにならないよう、活気がでるような場所（内容）にしたいなあと悩みました。
- ◎男性参加者が少なかったので募集が大変でした。
- ◎自治会や長寿会、女性団体等の組織作りに苦労しました。

◇活動の進め方（協力者の確保、PRの方法など）

- ◎福祉センターを開放して、誰もが自由に参加出来るよう「お茶でも飲み

にこられ」をキャッチフレーズにして、広報誌で開催案内をPRしました。

- ◎各地区の三世代交流会に参加し、事業への仲間入りをすることでサロン『よってかれ』の存在を知ってもらい、同時にボランティア募集の案内を行いました。
- ◎参加者の方には、物作りや、健康体操を行ったり、時には講師を招いて介護予防方法等の講義を受けたり積極的に参加できるようにします。
- ◎季節毎にお楽しみ会を開催し、喜び合い会員相互の親睦を図っています。(3月には「ひな祭り」、7月には「七夕祭り」、12月には「クリスマス会」等を近所の保育園児を招いて行っています)



<サロン『よってかれ』七夕祭りの様子>

◇活動上の課題・対応策

- ◎「福祉」とは高齢者のお世話をすることと思っている人が多いのでは。それも福祉ですが、日常生活での地域の助け合い（支え合うこと）であることを、折りに触れて話していきたいです。
- ◎学生ボランティアに「ふれあい三世代交流やイベント」の参加協力を依頼し、地域での「ふれあい・声かけ」の大切さを体験し、喜びや感謝の心を実感してもらい、地域福祉に貢献する機会を作りたいと考えています。

<大沢野北部地区のデータ> (平成23年9月末住民基本台帳)

| | | | |
|---------|------------------------------|------|----------|
| 人 | 口：7,855人 | 世帯数 | ：2,683世帯 |
| 65歳以上人口 | ：1,979人 | 高齢化率 | ：25.19% |
| 14歳以下人口 | ：1,023人 | | |
| 事務局 | ：大沢野北部地区福祉センター内 Tel 467-0437 | | |

(4) 健康ウォーキングの開催

保内地区社会福祉協議会 会長 上田睦男



<健康ウォーキング経路>

◇活動の概要

住民の健康増進を「ねらい」として始めました。スタート前・ゴール後の健康チェック、2人以上のチーム制とし「ワイワイ・ガヤガヤ」と楽しく歩きます。地区内の日頃あまり利用しない道をコースに選び、再発見を目指します。また、車内から見る景色と歩行者目線との違いの発見を期待しています。

おじいちゃんとお孫さんの世代間交流チームや親子のファミリーチーム、老人グループのチームなど、久しぶりに合う交流の場ともなっています。

そして、この「ウォーキング」が動機づけになり、今後生活習慣の中に取り入れてもらうことを期待しています。さらに各種団体の協力参加により、本事業はスタッフも参加者も充実感を得ています。

◇活動の開始にあたって苦労したこと

◎地区内全員の方々に行事をご案内し、参加者を確保する方法

最初、自治会を通じ回覧板方式で行いましたが、「ウォーキング」事業に関心度の差があり失敗でした。

次に、チラシをつくり、富山市広報と同時に全戸折込配布をし、不十分であるも現在もこれで行っています。

◎コースを実際に歩き、危険箇所の把握と、それに対応するスタッフの人数を見積ることが大変でした。

◇活動の進め方（協力者の確保、PRの方法など）

◎実行委員会にて協力者の役割分担を決めます。

◎参加者の確保

- ・FAXにより自主申込
- ・前回参加者へ電話して依頼
- ・各種団体組織に呼びかけ

◎PRの方法

チラシにて全戸配布



<実行委員会の様子>



<ウォーキングの様子>

◇活動上の課題・対応策

◎公道を利用するため、交通事故・トラブル対策

（対応案）十分なる誘導員の配置

◎参加者が特定されてきているので、それ以上の輪を広げたいです。

（対応案）参加者から他の友人へ口コミで誘い合せます。

各種団体組織も活かして誘い合せます。

<保内地区のデータ>（平成23年9月末住民基本台帳）

| | | | | | |
|---------|----------|---|------------|-----------|----------|
| 人 | 口：7,391人 | 世 | 帯 | 数：2,569世帯 | |
| 65歳以上人口 | ：1,824人 | 高 | 齢 | 化 | 率：24.68% |
| 14歳以下人口 | ：989人 | | | | |
| 事 | 務 | 局 | ：保内地区センター内 | TEL | 454-3622 |

(5) ネットワークの強化

神保地区社会福祉協議会 会長 高橋富雄



<地区社協合同研修会>

◇活動の概要

社会福祉活動に携わるボランティアスタッフ総数約50名が、昼夜を問わず見守り、いきいき・ふれあいサロン、三世代交流、高齢者学級等、そして一大イベントの敬老会(対象者75歳以上約500名中150名参加)を開催しています。民生委員・児童委員、保健推進員、社会福祉推進員の方々が各々分担して、各事業を遂行しています。

予算規模は年間150～200万円で、各戸割り当てや市社協の事業助成金で賄っています。自治振興会・ふるさとづくり推進協議会・総代会・老人クラブの強力な応援を戴きながら頑張っています。

◇活動の開始にあたって苦労したこと

1人暮らし高齢者や母子世帯、認知症、重度障がい者等、要支援・援護者を各担当が抱え込み1人で悩み、困っているのではなかろうかと考えたとき、障害となるのは、個人情報保護法ではなかろうか? 限度はありますが、情報を共有することを図るべく、地区社協に集うボランティアスタッフ・リーダーの皆さんが、より活動しやすく、また、きめの細かな気配りをするためにも各担当の横のつながり連携プレーが大切だと気付き、地区社協の活動内容の見直しを実施し、スタッフ全体の研修を積むことを決めました。

平成23年度も自治会、ふるさとづくり推進協、総代会、老人クラブからもご指導を戴き、社協の活動見直し、ネットワークの強化を図ります。

◇活動の進め方（協力者の確保、PRの方法など）

- ◎民生委員・児童委員・保健推進員・社協活動推進員・男女共同参画・ボランティアリーダー各担当の役割・活動内容をお互いに十分理解・認識します。
- ◎それぞれの活動上の課題について討議します。
- ◎イベント内容の周知・反省等を論議します。
- ◎自治会、地区センター、総代会への働きかけ事項の洗い出し



<敬老会>



<高齢者学級>

◇活動上の課題・対応策

- ◎各々担当者の任期・委嘱時期が異なるので、引き継ぎ等がまちまちとなり、苦労しています。行政に働きかけていきます。
- ◎社協推進員の任期を2年として研修を重ね資質の向上を図るよう、さらに改善を重ねていきます。

<神保地区のデータ>（平成23年9月末住民基本台帳）


| | | | |
|---------|-----------|------|----------|
| 人 | 口：4,990人 | 世帯数 | ：1,507世帯 |
| 65歳以上人口 | ：1,150人 | 高齢化率 | ：23.05% |
| 14歳以下人口 | ：706人 | | |
| 事務局 | ：市立神保公民館内 | TEL | 469-2497 |

3 地域での福祉情報の 収集と提供事例

(1) 『堀南あいねっと』の発行

堀川南社会福祉協議会 会長 東森和信

第 11 号



H23. 3. 5


本年に当の多い年でしたが、桃の節句も過ぎ、これから卒業、進級、進学と新しい旅立ちの季節を迎える今日このごろ、皆さんのいかがお過ごしでしょうか。

さて、福祉人材バンク、愛称『堀南あいねっと』に登録いただいた皆さんには、各々の経験や知識・特技などを地域のさまざまな活動にいかしていただき、ありがとうございました。今後も「出会い、ふれあい、語り合い」、そして「支え愛」による地域づくりに皆さんの力をお貸しください。『堀南あいねっと』への登録は、随時受付けています。

お問い合わせは、堀川南地区センター(☎492-3450)まで。

堀川南社会福祉協議会
会長 東森和信

ど 求め、給食ボランティア!



当協議会では、ひとり暮らし高齢者のみなさんに、月に2回、昼食サービスを実施しています。料理好きな方、ちょっとボランティアをしてみたい方、この事業にぜひご協力下さい。料理のレパートリーも増え、新しい友達もでき、何より人に喜ばれるボランティア活動です!

日時 毎月第2、4火曜日 9:30~13:30
場所 堀川南公民館 調理室

気持ちまで作ります♥

ど 保護司のなりてを求めています!(60歳前後までの方)

保護司は、社会奉仕の精神をもって、罪を犯した人の改善及び更生を助けるとともに、犯罪予防のための世論の啓蒙に努めもって地域社会の浄化を図り、個人及び公共の福祉に寄与することを使命としています。

自薦、他薦どちらでもかまいません。下記まで連絡をお待ちしております。

○『協力雇用主の開拓』と『富山市協力雇用主会設立』のお願い

犯罪や非行のない社会を築くため、国では法務省と厚生労働省が連携し、さまざまな支援をされているところです。

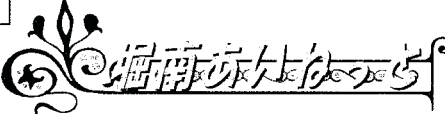
富山市においても犯罪予防や非行防止に努めるとともに、犯罪や非行歴のある人たちを雇用してその更生を図るため、「富山市保護司会協力雇用主会」の設立について考えておられます。

何卒この趣旨をご理解の上、堀川南地域の事業主の皆様方のご協力をお願い申し上げます。

【連絡先】 堀川南校区保護司
水盛隆義 本郷町3区192 ☎421-9357
中田 齊子 本郷町5区180 ☎423-3196 樋口ちづ子 下堀6-5 ☎423-2882

「この事業は、一部共同募金の配分を受けています。」

回覧



H23. 8. 18

第 12 号

立秋とは名ばかりの暑さが続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、福祉人材バンク、愛称『堀南あいねっと』に登録いただいた皆さんには、各々の経験や知識・特技などを地域のさまざまな活動にいかしていただき、ありがとうございました。

今後も「出会い、ふれあい、語り合い」、そして「支え愛」による地域づくりに皆さんの力をお貸しください。『堀南あいねっと』への登録は、随時受付けています。

お問い合わせは、堀川南地区センター(☎492-3450)まで。

堀川南社会福祉協議会
会長 東森和信

ど 介護予防教室ボランティア募集

堀川南地域包括支援センターでは、H24年1月より、65歳以上の方を対象に「パワーハビリー」という機器を使った介護予防教室を開催する予定です。

この教室を開くにあたり、補助いただけるボランティアさんを募集しています。記録や参加者の見守りなど、簡単な補助をお願いしたいと思っています。

ご協力いただける方、ご連絡をお待ちしております。

【連絡先】 堀川南地域包括支援センター
(☎411-7373)
担当 吉野まで

「地域の皆様へ」

7月23日開催しました「盆踊りの夕べ」は、皆様のご協力をもちまして大盛況に終わりました。ありがとうございました。

そこで少し先の早い話ですが、来年に向けて皆様をお願いします。

『電気の配線できる方募集します!!』盆踊りのちよっちゃん等電気の配線のできる方「堀南あいねっと」に登録しませんか? いつでもお待ちしております!

【連絡先】 堀川南ふるさとづくり推進協議会
(☎492-3450)

◆保護司のなりてを求めています!(60歳前後までの方)

保護司は、社会奉仕の精神をもって、罪を犯した人の改善及び更生を助けるとともに、犯罪予防のための世論の啓蒙に努め地域社会の浄化を図り、個人及び公共の福祉に寄与することを使命としています。

自薦、他薦どちらでもかまいません。下記まで連絡をお待ちしております。

◆『協力雇用主の開拓』と『富山市協力雇用主会設立』のお願い

犯罪や非行のない社会を築くため、国では法務省と厚生労働省が連携し、さまざまな支援を行っています。

富山市においても犯罪予防や非行防止に努めるとともに、犯罪や非行歴のある人たちを雇用し、その更生を図るため「富山市保護司会協力雇用主会」の設立について考えています。

何卒この趣旨をご理解の上、堀川南地域の事業主の皆様方のご協力をお願い申し上げます。

【連絡先】 堀川南校区保護司 水盛隆義 本郷町3区192 ☎421-9357
中田 齊子 本郷町5区180 ☎423-3196
樋口ちづ子 下堀6-5 ☎423-2882

「この事業は、一部共同募金の配分を受けています。」

< 広報『堀南あいねっと』 >

◇ 活動の概要

堀川南地区では住民を対象に「男性料理教室」「ふれあい農園」、夏には「盆おどりの夕べ」など、いろいろなイベントを開催しています。

その活動のほとんどは、ボランティアの皆さんのお手伝いや講師のご協力で作られています。そのようなボランティアへの参加をお願いするために、年2回『堀南あいねっと』という広報を発行しています。

◇ 活動の開始にあたって苦労したこと

- ◎人材バンク検討委員会(2回)を開催したり、名称を募集したりして設立をPR
- ◎ボランティアカードを作成して募集を開始したが、当初は数名しか集まらなかった。
- ◎登録したのに声がかからないとの苦情や、「ボランティアしたい人」と「ボランティアしてもらいたい人」を結びつける難しさ
- ◎情報の収集と提供の難しさなど

◇活動の進め方（協力者の確保、PRの方法など）

- ◎日頃から地区の皆さんの要望を聞いておくこと
- ◎イベントごとの問題点や改善点を収集し、どう改善していくか、何が足りないかを調べておくこと
- ◎いろいろな団体との情報交換を大切にすること



<ふれあい農園>



<ボランティア講座>

◇活動上の課題・対応策

- ◎ボランティア募集についての情報収集のためにも、もっとたくさんの人に『堀南あいねっと』について知ってもらう必要がある。
- ◎年2回の『堀南あいねっと』の町内回覧だけでは、なかなかボランティアが集まらないので、地区のイベントでパネル展示したり、ボランティアについてもっと身近に感じてもらえるような講習会を開いたりして広報活動を強化していきたい。

<堀川南地区のデータ>（平成23年9月末住民基本台帳）

人 口：13,684人 世 帯 数：5,579世帯
65歳以上人口：3,058人 高 齢 化 率：22.35%
14歳以下人口：1,907人
事 務 局：堀川南地区センター内 TEL 492-3450

富山市社会福祉協議会では、「だれもが住み慣れた地域で安心して生きがいを持って、生活できる福祉のまちづくり」を目指して、地区社会福祉協議会と連携を図りながら地域福祉活動を推進します。

社会福祉法人富山市社会福祉協議会

| | | | |
|-------|-----------|--------------------|------------------|
| 本 所 | 〒939-8640 | 今泉 8 3 番地 1 | TEL 076(422)3400 |
| 大沢野支所 | 〒939-2224 | 春日 9 6 番地 1 | TEL 076(467)1294 |
| 大山支所 | 〒930-1312 | 上滝 5 2 3 番地 1 | TEL 076(483)4111 |
| 八尾支所 | 〒939-2376 | 八尾町福島 2 0 0 番地 | TEL 076(454)2390 |
| 婦中支所 | 〒939-2603 | 婦中町羽根 1 1 0 5 番地 7 | TEL 076(469)0775 |
| 山田支所 | 〒930-2198 | 山田湯 7 8 0 番地 | TEL 076(457)2113 |
| 細入支所 | 〒939-2184 | 楡原 1 1 2 8 番地 | TEL 076(485)9008 |

平成 2 3 年 1 1 月 発行